

第2回 五ヶ瀬川水系流域委員会 要旨

主要概要

1. 第1回流域委員会議事の確認

第1回流域委員会の議事内容についての確認。

(資料：第1回五ヶ瀬川水系流域委員会要旨)

2. 委員長挨拶

- 第2回委員会の内容として「基本方針の流量」、[正常流量]について事務局より説明のこと。(環境影響評価「SEA」については次回)
- 代理出席を認める範囲についての説明。

3. 五ヶ瀬川水系河川整備基本方針について

- 事務局より五ヶ瀬川水系河川整備基本方針本文内容をパワーポイントを用い説明するとともに、その中の整備目標流量及び正常流量の決定根拠について詳しく説明。
- 事務局説明に対する質疑。

4. 第3回流域委員会開催について

7月末～8月中旬(お盆前)で調整を行う。

質疑内容

1. 代理出席について

組織として出席されている委員について認めるものとし以下のとおり。

- ・ 櫻井 哲雄（延岡市長）
- ・ 黒木 睦郎（高千穂町長）
- ・ 清本 英男（延岡商工会議所会頭）
- ・ 須田 政道（延岡五ヶ瀬川漁業組合長）
- ・ 染矢 敏則（延岡市土地改良区理事長）
- ・ 田丸 眞（延岡観光協会会長）
- ・ 牧野 哲久（延岡市教育会教育長）
- ・ 山形憲二郎（旭化成(株)延岡支社企画管理部長）
- ・ 梶井恵子（リバーパル五ヶ瀬川館長）
- ・ 片伯部昌彦（夕刊デイリー新聞社編集部長）

2. 五ヶ瀬川水系河川整備基本方針について

1) 全般について

- 本文にある「河川環境の整備と保全」(P6～)の基本的な考え方、理念に基づいて流域委員会で、整備計画を立てていくということで良いのか？
(事務局) : 基本方針は決定されているので、基本的スタイルは変えられない。この考え方、理念に基づいて具体的な議論をしていただきたい。
- 「利水」と「治水」と「環境」そういう3つの部会に分かれてお互いもう少し勉強し提案していく方がよいのではないか、出来れば今日決めた方が良いのではないのか？
(委員) : 今後の委員会で、治水・利水・環境の課題になるところを事務局の方から具体的に提示してもらい、それをもとに部会に分かれるのが望ましい。

- 河川整備基本方針の計画流量に対応するための工事は、何年かけてやるつもりなのか？

(事務局) : 期間を限定するのは、難しい。本委員会で議論するのは、20 年ないし 30 年の中期的な整備目標。

- 実際に河川を利用している方の整備に対する要望をアンケートとかの方法で集約し、反映させる必要がある。

(事務局) : ・利用に関しては、過去のデータがあるので提示できる。
・地域の方の意見集約方法についても意見を伺いたい。

(委員長) : アンケートについては、文案そのものから対象範囲まで、この流域委員会の承認を得て行うものであるので、その時期になったら事務局から提案して欲しい。

- ハードの整備だけでなく、ソフトの整備も含めて流域委員会でご意見を伺いたい。

2) 高水計画について

- 流量配分図において支川合流後の流量が支川合流前の本川流量と支川流量との合算値となっていないのは？

(事務局・委員長) : 本川と支川の洪水ピークの時間が同じであれば足し算になるが、実際には河川の規模(流域の大きさ)が違っていると、同じ雨が降っても出てくるのに要する時間が違うため、必ずしもピーク合流ということにはならない。

- 現在の須崎橋下流のように樹木等が相当生い茂っている状態で、三輪 7,200m³/s、河口 9,000m³/s とされているが大丈夫か？

(事務局) : あくまで整備目標が 7,200m³/s であり、現状では流下能力は概ね 5,000m³/s で、約 2,200m³/s 分の断面が不足している。

それをみなさんに整備計画という形で今後どうしていくかという議論をして頂かなければならない。

(委員長) : 安全に水を流すメニューは、たくさんあり、治水・利水と環境の 3 つを調和させ、どういうメニューをどういう理由でこの流域委員会は案として国土交通省側に投げるのかを考えなければならない。

- 整備基本方針で計画された流量を流すためのメニューが既に立てられているもの、実施されているものがあれば教えて欲しい。

(事務局) : ・今後議論していくのは、整備基本方針の計画流量に対して整備計画のメニューをつくるのではなく、当面 20~30 年で実施するものを議論して提案してもらう。

・箇所別の改修効果、環境への影響については、今後提示して行きたい。

(委員長) : 国土交通省は、原案は持っているが、それは原案でしかなく、流域委員会はそれに注文をつけることが出来る。

- 従来の計画流量 $6,000\text{m}^3/\text{s}$ を $7,200\text{m}^3/\text{s}$ にしたことで、 $1,200\text{m}^3/\text{s}$ 増えているが、その大半を大瀬川でなく五ヶ瀬川に振り分けることになっている基本的な考え方は？

(事務局) : ・大瀬川は、人工的な河川で過去引堤による改修を行っており、従来の河川と比べ非常に大きな川となっている。
・又、鮎という貴重な資源があり大規模な掘削が難しい。
・五ヶ瀬川は、改修することにより自然再生するという意味もある。

(委員長) : 整備基本方針は、決定事項であり当委員会での議論材料にはならない。

3) 低水(正常流量)について

- 正常流量が三輪地点で、 $11\text{m}^3/\text{s}$ となっているが、この量で分流後の五ヶ瀬川・大瀬川とも問題ないということか？

(事務局) : ・試験分流という形で最近 $1\text{m}^3/\text{s}$ を五ヶ瀬川に流しているがこれ以上五ヶ瀬川を増やすと今度は大瀬川の漁業、産卵が出来なくなることから当面現在の $1\text{m}^3/\text{s}$ という形でいかざるを得ない。
・五ヶ瀬川の水質は、従来からすれば良好な状況を保っているので、現状では大丈夫ではないか。
・いろいろな議論をして頂いて構わない。

- 上流部についても川水流周辺では、瀬がかなり浅いときがあり 10cm 以下となることもある。三輪地点は、下流でかなり水が集まってきている部分だと思うので、通常水位をもう少し上げるような対策もしていった方が良いのでは？

(委員長) : 御意見のように整備をする上で、いろいろな面からこういった点を注意しないといけないのではないかも含めて御意見を伺いたい。

- 高水の話だけでなく、通常はどの程度の流れになっているのか、春夏秋冬くらいで絵を示して欲しい。又その辺の基礎データを提示して欲しい。

(事務局) : 低水流量観測を実施しているので、季節ごとに分けて提示する。

- 正常流量は、五ヶ瀬川(三輪)だけ考えているみたいだが、他の支川については考えなくて良いのか？

(事務局) : ・正常流量は、各水系の中で基準地点だけ目安として決定している。

・支川についても決めることが望ましいがデータ数とか色々な決め方が変わってくるので難しい。

- 流況の値が 33 年間の平均となっているが、5 年又は 10 年で区切って提示して欲しい。上流の植林等との関係が見出せないか。

(事務局) : 欠測期間はあるが、データを整理する。

4) その他

- 山のサイドから見た治水では、川の問題と治山の問題は関係あるのではないか？

(事務局) : ・治水と治山については、林野行政との横の連携を地域だけでなく、国全体として取り組む必要がある。今後、流域全体として五ヶ瀬川の取り組みを含めて、流域委員会の中で議論して頂きたい。

- 延岡の方では、総合土砂管理について検討は始めているのか？

(事務局) : まだ、始まっていない。

3. 次回について

以下の点について説明する。

- 環境影響評価 (S E A) の説明。
- 治水上懸案になる箇所がどういったところか。
- 環境上押さえておかないといけないポイントはどこか。
- 利水上の留意点。